



東京全労協

2015年9月30日 78
東京都港区新橋6-7-1
川口ビル6F
TEL. 03 - 5403 - 1650
FAX. 03 - 5403 - 1653
発行人 纈纈 朗
定 価 1部 10 円



石川さんの自宅があった場所、建物の中には石川さんの自宅を再現して作られている（前列左から4人目が石川さん）

東京全労協結成25周年記念事業 風景は変わっても真実は一つ 狭山現調・丸木美術館交流合宿

9月5日、6日に行われた東京全労協結成25周年事業・狭山現調・丸木美術館交流合宿に参加した。参加した実感は、「風景は変わっても真実は一つ」であり、「真実を歴史の中に埋没させない闘いを担うのは我々自身だ」ということだった。

再審も終盤迎え吾命正義の連呼に 生命線

これは、石川さん宅で撮った記念写真に添えられた石川さんの現在の熱き思いを詠んだ短歌である。今狭山再審闘争は、検察側が隠し持っていた証拠リストが開示され、再審勝利に向けて大きく動き始めている。1963年5月23日の石川一雄さん不当逮捕以降、52年。石川さんは、被差別部落に対する差別キャンペーンの中で逮捕され、「働き手の兄貴が逮捕されたら大変だ」と思いこまされ、警察との「認めれば10年で出してやる」を信じて、第一審の「死刑」判決さえその意味が分からずにいたという。しかし、獄中で文字を奪い返し警察権力のウソと甘言を見抜く力を身に着け、「俺



石川早智子さんから報告を受けた

は無実だ」と敢然と立ちあがった。以降部落解放同盟や支援者と共に闘い続けている。筆者も1971年の高校生の時からこの支援運動の片隅にいた。

今回、狭山現地調査の前の講演会で一番印象に残っていることは、石川さんが獄中で文字を奪い返すことができたことにかかわるエピソードだ。刑務所にいるときある刑務官が石川さんに文字を覚えることを勧めたことは知っていたが、彼は石川さんが文字を奪い返すことを支援しただけではなく、無実を訴える手紙を出すための便せんなどの差し入れを石川さんには内緒で行っていたということだ。石川さんの闘いは、こうした影の支援者にも支えられていたこと。刑務官という仕事をもしかしたら失うかもしれないことよりも無実の人間を獄中に閉じ込めている現実への怒りの方が彼の中で大きかったのではないかと考えた。そして、私たちも労働者として職を賭

丸木美術館 真実を歴史の中に埋没させない

翌日は丸木美術館へ向かった。広島原爆を描いた原爆の図のいくつかは今アメリカで展示されている。

しかし、残された絵の一つ一つに丸木夫妻が広島で経験したことが描かれていた。その迫力は、この現実を必ず後世まで伝えろという死者の言霊が聞こえるようだった。

長崎の人が、沖縄の人が経験したことがその人たちの目線と怒りと悲しみを実感させるものとして描かれ迫力のあるものだった。

安倍政権が戦争への道を歩めようとしている今だからこそ知らなければいけない真実がそこにはあった。

東京全労協25周年事業としてこの二つの場所に行けたことはとても意義深いものだった。（藤村妙子）



丸木美術館へカンパを行いました



現調では自白させられたルートを歩く

すこともいとわず労働者民衆の立場で行うことができらるだろうかと思問した。まさに戦争ができる国へと向かおうとする中で、お役人ではなく労働者として生き抜くことが問われている今

だからこそこの問いは大きいと思う。

そして、狭山の現地調査に出発した。約30年前に同じ場所に来たとは思えないほど風景は一変していた。雑木林は宅地化されていた。しかし、真実は一つ。いくつから風景が変わっても疑問は残る。高校一年生の活発な少女を「ちよっと用がある」というだけで雑木林に連れ込めるか？死体を抱きかかえて運び、芋穴につるし、引き上げ畑に埋めるなどの行為がたった一人で行えるのか？聞けば聞くほど疑問は広がり、石川さんの無実を確信した。（藤村妙子）

労働者派遣法の大改悪に抗議する！

労働者を犠牲にする「成長戦略」に反対し、労働組合は安倍政権打倒の先頭に立とう！

9月9日の参議院本会議で、前日の参院厚労委員会での混乱のなか採決された派遣法改悪案が可決・成立され、11日には衆議院本会議で再可決された。

東京全労協は、安倍政権の雇用破壊に反対する共同アクションに参加し、多くの派遣労働者や労働組合と共に、大集会やデモ、院内集会や昼休み集会、座り込みなど派遣法改悪反対の諸行動に全力で取り組んできた。

多数の派遣労働者や労組の反対の声を無視し安倍政権が派遣法改悪を強行したことにより、派遣労働者が



東京全労協も宣伝行動を取り組んできた

労働法制の大改悪であり、資本の側が、労働者から搾れるだけ搾り取るというものだ。

東京東部労組全溶支部

10/9 ストライキ抗議アピール 行動に支援結集を！！

JRや私鉄各社のレール溶接を手がける株式会社全溶の労働者でつくる全国一般東京東部労組全溶支部は10月9日、ストライキ抗議アピール行動を全溶本社前でを行います。

同支部が要求しているのは、4年前に沼田社長が就任して以降、溶接資格手当などがカットされたことや溶接口数に応じた作業員数が削減されたことなどを元に戻すことです。

これまでのストライキをふまえて9月7日の団体交渉で組合側があらためて手当の復元などを求めましたが、会社の回答はゼロでした。組合側は会社の人員削減や会社の不誠実な対応によって労働争議を招いた結果として、レール溶接の品質劣化につながっていることを指摘し、「安全を犠牲にするのか」と現物のレールを手に訴えました。しかし、沼田社長は聞く耳を持たず、

労働者を犠牲にして多国籍化した巨大企業と米國に奉仕する、安倍政権打倒の秋の闘いはすでに開始されている。東京全労協は全ての労働者と共にその先頭に立つ決意だ。



たずに一方的に席を立ちました。安全よりも利益を優先するともない姿勢です。ストライキ抗議アピール行動へのみなさんの支援結集をお願いします！
【東京東部労組全溶支部ストライキ抗議アピール行動】
日時：2015年10月9日（金）午後2時
場所：株式会社全溶（東京都練馬区東大泉2-11-6）
午後1時40分に西武池袋線「大泉学園」駅の改札

井上眼科病院解雇撤回！

高裁での闘いへ

8月4日、「井上眼科 不当解雇撤回！福井さんを支え職場に戻す会」総会が開催された。「戻す会」共同代表の全労協金澤議長、中小ネット中村共同代表、ひらの亀戸ひまわり診療所の平野理事長、さらに東京全労協の額額議長から挨拶を受け、東京地裁での解雇無効の勝利判決をふまえ、争議解決・職場復帰へ向けた態勢の強化を確認した。



フジビ闘争勝利へさらなる支援を！

総会では、郵政ユニオン、JAL争議団、フジビ、NTT木下さんなど多くの争議団から激励の発言が寄せられた。病院に出席してきた三井住友銀行の社員らによつて、福井分会長は社会保険労務士資格を「詐取した」と決めつけられ、問答無用で解雇された。解雇無効を訴えた裁判では、7月16日に東京地裁で判決が言い渡され、「本件解雇は、客観的に合理的な理由を欠き、社会通念上相当であるとは認めら（1つしかありません）に集合してもらえば、そこに東部労組の腕章をした全溶支部の組合員がいますので現場まで案内させていただきます。

しかし、病院側は判決に従おうとせず、即日控訴した。紛争を長引かせ、拡大しようとする暴挙であり、医療機関としての社会的責任を放棄するものだ。
控訴審は、10月14日13時半から東京高裁809法廷で行われる。高裁での勝利判決を目指し、お茶の水駅頭での抗議宣伝行動、三井住友銀行や眼科医会・医師会への申し入れ行動など、職場復帰へ向けてさらに闘いを強化したい。
全統一労働組合書記長 佐々木史朗

経営者親子にも、当然責任を取ってもらわなければなりません。企業破産を隠れ蓑にして市井に埋もれ、何らの社会的制裁も受けずに生き続ける彼らを、決して許しはしません。
9月3日には、日暮里ひろば館で決起集会を行いました。都労委協議との関係で直前に会場を変更するなどの事態もありましたが、満場のご参加を頂き成功することができました。誠に有難うございました。
確実に運動は前進していきます。闘争勝利に向け、今後ともご支援お願い申し上げます。
全労協全国一般東京労組 フジビグループ分会 小金井 俊弥